

## 主な検討事項と対応方針

検討項目		主な検討事項	対応方針案	参考資料 検討材料
基本事項	取り決め事項・ルール	【ボートの表記】 動力付きゴムボートの表記について	・動力付きゴムボート（IRB）と表記	【資料3】
		【任務分担】 任務を明確にすることでより安全効果的な活動を実施する必要がある。	・任務分担について、以下のとおり区分し、任務を示す。 ①操縦士（ドライバー） ②救助員（レスキュー） ③乗組員（クルー）	
		【乗船位置】 効果的な操船を実施するため、乗船位置について検討する必要がある。	①操縦士（ドライバー）：船尾左舷側 ②救助員（レスキュー）：船首右舷側 ③乗組員（クルー）：船体バランスを考慮した位置	
		【バックアップ体制】 トラブル発生時等、1艇での活動では対応が困難な場合を想定し、2艇による運航体制を検討する必要がある。	・各消防本部の実情等を踏まえ、原則2艇での運用体制について検討する。	
装備・資機材	【救助活動に必要な仕様（ボート・船外機）】 船首を操作するためのパウロープやフットストラップ等、救助活動に必要な仕様について検討し、紹介する必要がある。また、船外機についても、荒天時や急流環境等での必要馬力数を示す外、プロペラガードの必要性について検討する必要がある。	・パウロープやフットストラップ等が救助ボートの仕様として必要であることを示す。 ・荒天時や急流環境等で活動するのに必要な推奨馬力数を示す。 ・隊員及び要救助者の安全確保の観点から、プロペラガードの必要性を示す。	【資料4】	
	【個人装備及び積載資機材】 安全管理及び効果的な活動の観点から、必要な個人装備と積載資機材について明確に示す必要がある。	・平成29年度高度化検討会報告書を参考とし、救助活動時（流水救助活動参考）と移動・搬送活動時（静水救助活動参考）の個人装備品について検討する。 ・積載資機材リストについても明確に示す。		
救助活動マニュアル	操船要領	【基本操船要領】 操船技術の向上を図るため、一連の基本操船要領について示す必要がある。	・以下の項目について基本操船要領を示し、操船技能向上を図る。 ① エンジン始動、前進 ② 後進 ③ 転舵 ④ 減速 ⑤ エンジン停止 ⑥ ターン ⑦ パウタッチ ⑧ チルトロックレバーの操作 ⑨ 曳航要領	【資料5】
		【活動水域別留意事項】 活動水域ごとの留意事項、テクニックについて示し、ボートレスキュー技術のさらなる向上を図る必要がある。	・以下の活動水域について、操船テクニック及び留意事項等について示し、更なる操船技能向上を図る。 ① 海域 ② 急流河川（洪水時の急流域含む） ③ 浅水域 ④ 狭小水域 ⑤ 夜間・視界不良	
	救出要領	【救出要領】 要救助者を救出し、陸上へ引き継ぐまでの活動要領について示す必要がある。	以下の項目について、活動要領を検討し示す。 ① 意識ありの要救助者救出要領 ② 意識無しの要救助者救出要領 ③ 陸上への引き継ぎ要領	【資料6】
点検・整備要領	【点検・整備要領】 現場でエンジンがかからないトラブルが頻発している。点検整備要領を明確に示し、メンテナンス能力の向上を図る必要がある。	・日常、使用前、使用后点検の要領を示す。 ・部品交換の目安、修繕/要領を示す。 ・点検・整備チェックリストを示す。	【資料7】 【資料7別図】	
事故発生時の対応	【事故発生時の対応】 操船中のエンジントラブル、資機材損傷等、事故発生時の対応要領について検討し示す必要がある。	以下の項目について検討する。 ① 各種エンジントラブル ② 資機材損傷 ③ ボート転覆時の対応 ④ 隊員落水時の対応 ⑤ ボート座礁時の対応	【資料8】	
安全管理要領	【各種危険要因の把握】 隊員の安全管理の観点から、活動時の各種危険要因を示す必要がある。	・以下の項目について検討する。②③については平成29年度検討会報告書を参照とする。 ① 海域 ② 急流河川 ③ 洪水	【資料9】	
	【各種安全管理要領】 隊員の安全管理の観点から、活動時の留意事項について整理し示す必要がある。	・以下の項目について検討する。 ① 基本事項 ② 進水時 ③ 操船時 ④ 救出活動時 ⑤ 潜水活動時 ⑥ 夜間活動時		

参考	<p>【先進的・効果的資機材】 ボートレスキュー体制の更なる充実に向け、先進的・効果的な資器材について紹介し、有効性を検討する必要がある。</p>	<p>・以下の項目について必要性を検討する。 ① 大人数を搬送可能なボート ② 機動的なボート ③ 迅速な救助体制が可能な各種搬送車両 ④ 海外のボートレスキューで活用されている資機材 ⑤ その他効果的な資器材</p>	
	<p>【効果的な訓練・教育体制】 「明確な技術向上方策、技能管理方策がない。」 「訓練場所がないため、効果的な訓練が実施できない。」等の実態調査結果を踏まえ、技能の維持管理、向上に向けた検討が必要である。</p>	<p>・以下の項目について検討する。 ① 効果的な訓練内容の紹介 ② 研修機関の紹介 ③ 動画の作成</p>	
法令関係	【救命胴衣】	関係機関と調整中	
	【夜間運航】		